

北海道新幹線並行在来線対策協議会 第9回渡島ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和4年8月31日（水）15:00～16:20
場 所：渡島総合振興局（函館市） 〕

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

（1）将来需要予測・収支予測調査の精査について

事務局から資料について説明。

【北海道交通企画監（座長）】

駆け足で説明させていただきましたが、函館線の経営分離後におけます地域交通の確保の方策の方向性を検討していく上で、函館・長万部間につきましては、普通列車や特急列車、新幹線と接続するのはこだてライナー、さらには貨物列車など、様々な列車が運行している特徴のある路線となっております。地域の足として、住民の皆様が求める利便性や速達性、さらには輸送力の確保など、今後、どう維持していくかが重要であると私は考えております。

こうした点につきましては、先ほど担当者からも説明がありましたけれども、幹事会の場を有効に活用しながら地域からの要望なども踏まえながら協議を行っていく考えであります。

今日は折角ですので、今説明した事項につきまして、皆様から一言ずつご意見をいただいて、それをまたフィードバックしながら作業していきたいと思っております。

それでは、函館市長様、ご発言よろしいでしょうか。

【函館市長】

収支の見通しについては精査していただいたと思いますが、これだけで判断に至るところまで詳細に精査できているのかなというのは、まだ、しかねております。ただ、いずれにしても、第三セクターで運行するというのは大変厳しい状況であり、結構な資金を要すると考えております。もう少し具体的に私どもとしても掘り下げて検討を深めていきたいなというふうに思っているところであります。現時点では以上です。

【北海道交通企画監（座長）】

第三セクターとは（はこだて）ライナーの件と受け取ってよろしいでしょうか。

【函館市長】

（はこだて）ライナーについては、札幌延伸時に、私と当時の知事、JR北海道といろいろ協議をさせていただいて、函館・新函館北斗間については、第三セクターとして存続させるということで私どもはそれに同意した経過があります。函館市としては是非、存続維持ということでお願いをしたいというふうに思います。

新函館北斗・長万部間については、皆さんとの協議で今後決定していくのだろうと思いますが、（はこだて）ライナーについては必ず実現をさせたいと考えているところがございます。収支についてはもう少し見直す余地はあるかなと私自身も思っています。この区間だけで言うと、収支はもっと改善していく余地はあると思っています。そういうことを今の時点で申し上げておきたいと思っております。

【北海道交通企画監（座長）】

私どもも、函館・新函館北斗間については、輸送密度が高いということもございますし、現在も通勤・通学以外の日常の生活利用、あるいは観光利用が非常に多い区間であると認識しております。特にはこだてライナーは新幹線利用者が函館市の往来に利用されているという観点からも、ご指摘があったように、今後利用実態も踏まえまして、幹事会などにおいて精力的に検討を進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

【函館市長】

追加で申し上げますと、函館・新函館北斗間は当時、後々残すということで JR 北海道も協力するということが、電化をしていただいた経過があります。この区間については通勤・通学のいわゆる従来型の第三セクターとは少し違う。道南いさりび鉄道は、観光客ではなくて通勤・通学の路線。従って、人口が減っていくと利用者が減るという推計なのですが、この区間はどちらかという観光路線でありまして、通勤・通学はそんなに使われていない路線。インバウンドも含めて、新幹線利用客が増えると（はこだて）ライナーを使う人も増える。札幌・函館・新函館北斗が1時間で結ばれると、新千歳空港を利用するインバウンド等が道南に来る確率が高まる。あるいは、大型バスで移動していた人たちが新幹線に移行する。函館空港で降りてニセコ・倶知安に行く人も増える。インバウンドが増えれば自動的に（はこだて）ライナーを使う客も増えるということが期待されるので、そこら辺の収支を踏まえれば、採算性は良くなるのではないかと考えています。是非、一緒になって検討していければと思っています。

【北海道交通企画監（座長）】

函館市は道内でも屈指の観光都市ということで、私どもも、市長からご指摘の点を十分理解した上で、今後精力的にやっておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

続きまして、北斗市長様よろしければお願ひいたします。

【北斗市長】

今説明いただきましたが、確かに見直しはしていただきました。見直しはしていただいたんですけども、非常に大きな金額であると考えております。ただ、函館・新函館北斗間については、そもそも新函館北斗駅の使命と申しまししょうか、役割があると思っています。そういった意味では、函館・新函館北斗間の三セクというのはやはり実現はしていきたいというのが正直な考えです。ただ、私どもは現在、道南いさりび鉄道も運営してございます。例えば運行距離だけを申し上げますと、函館・新函館北斗間というのは半分なんです。半分の運行距離なんです。単年度の収支というのは逆に大きな金額になっている。この辺はかなり検討する余地は私はあるのではないかと考えております。それと同時に、バス運行もございまして。各自治体が地域に住む人たちの利便性も考えていかなければいけない。しかしながら、大きな財政負担も要する。そういった状況を、今日お示しいただいた資料を含めて、また検討させていただければと思っています。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。道南いさりび鉄道も含めて、コロナ禍もありまして非常に厳しい状況で運行されておまして、我々としても同じ交通網で繋がっていることについては、重く受け止めております。ご指摘のありました数字の精査についてもしっかりと反映させてまいりたいと思っております。バスの利便性の確保につきましては、昨日も留萌のほうで会議がございまして、その際にも、やはり高齢化が進む中で、バスのご利用にあたっていろいろと工夫が必要だご指摘をいただいておりますので、国の制度ももちろん活用していく必要はありますし、利用者のご意見も踏まえながらできるだけ早くバスルートの考え方も示していかなければならないと考えております。できる限り幹事会にも早くお示ししながら、皆様のお手元に届けられるように努力してまいりま

すので、どうぞよろしくお願ひいたします。

続いて、七飯町長様、よろしくお願ひします。

【七飯町長】

私どもも観光地として函館市さんと一対になっている大沼公園もございますし、新函館北斗駅と函館駅の間に挟まっているような市街地構成となっております。私どもとしては、現在、はこだてライナーを重宝させていただいて、通勤・通学の部分でも使わせていただいております。また、観光面でも、インバウンドの方々には以前いらしていたときには、ローカルのものも使わせていただいて、町にも降りていただいていた経過がございます。そういう意味では、慎重に取り扱っていかねばならないと思っておりますが、収支予測調査の結果を見ると、億単位の経営をしなければならないということもございますので、もう少し精査していただいた中で、最終的に判断していきたいと思っておりますけれども、私どももはこだてライナーについては精査する中で、引き続いていけばいいと考えておりますので、函館市さん、北斗市さん共々協力して、道庁さんも含めて経費の圧縮に向けて精査をお願いしたいと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございました。やはり鉄道は巨大な装置産業で、億単位という数字の中で、担当からもご説明しましたが、なかなか精査の部分はストンと落ちないということはあろうかと思いません。繰り返しになりますが、幹事会でできるだけ揉んだ上で、実現に向けた数字が明らかになるよう努めてまいります。

（はこだて）ライナーについての重要性についてご指摘いただきました。インバウンドはまだ戻ってきておりませんが、徐々に国際線は再開してきておりまして、直近の国内も航空需要は北海道エアポート（HAP）の予想を上回って戻ってきているという現状がございますので、アフターコロナを見据えるとともに、将来的にこの地域の交通体系を考えて行く上で、やはり（はこだて）ライナーというのは一つの重要な要素でもありますので、しっかり議論した上で、我々も皆様と一緒に考えてまいりたいと思っております。

鹿部町長様、よろしくお願ひいたします。

【鹿部町長】

いつも資料等、ありがとうございました。また、大変な作業だったと思いますが、大変見やすい資料ありがとうございました。各市町にはいつも大変お世話になっております。

うちの財政規模からして見たことのないような金額なので、大変だなと思っておりますけれども、我々行政が公共交通を考えるときに、民間の、市場で乗っているものであれば、我々行政が出る必要もなくて、これが公共財として必要であれば、守るべきものがいくらかあったとしても、当然守らなければいけないと。そうでないものは守れないというのが原則だと思っております。道南いさりび鉄道も生活する上で必要なものは、守っていくんだろうと思っております。事務局の方にも一度話をしたことがありますが、あるものがなくなったという暗いものではなく、移動の革命とも言えるいろいろなものが出てきている中で、明るい将来像をどうにか作っていくんだと、我々は過疎地域に指定されて、離れた地域でも移動手段があつて、明るい未来が待っているんだというような交通網体制というのを一緒に考えていけたらなと。全体で、キラキラした未来を描けるようなそういったものも描いていけたらなと考えておりました。

この資料を町に持ち帰って皆さんにお示しながら検討してまいりたいと思っております。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございました。当地は北海道新幹線札幌延伸に向かって、八雲町さん、長万部町さんにも新駅ができるということで、未来志向で様々な交通体系を再構築していくくらいの気持ちで我々当たってまいりたいと思っております。道央と道南が短い時間でつながるということで、人の往

来も未来を見据えたものにしていけるように知恵を絞ってまいりたいと思いますので、幹事会のほうでも忌憚のないご意見をいただけるように、お願いしたいと思います。

森町さんお願いいたします。

【森町長】

森町の岡嶋でございます。本日はこのような資料をご提供いただきまして、ありがとうございます。情報の精査と言いますか、いろいろな条件を予測しながら数字を出していくというのは本当に大変な作業であるなどと思いながら、感謝する次第でございます。

当町といたしましても、お示しいただいた数字を使って、地域の方々に、現状どのような方向性を見出していくべきか、ご要望等も含めてお聞きする機会というのを早急に作らなければならないなど思っているところであります。前回の会議の中で、開業する2030年の5年前には、方向性を定めてというスケジュール感があったと思うんですけども、この事業を行っていただく事業者様、いろんな形があると思うんですけども、コロナ禍が2年3年と続いている中で、様々な事業者様が体力を奪われている状況で、どのパターンにしろ、いざ事業をやりますというときに、事業者様がどのように反応していただけたかというのが正直すごく不安なところでございます。現に、森町内でも地域公共交通の再編として実証実験等々を行っているところなんですけども、コロナ禍での事業者の体力の減少は顕著に表れていて、事業者の社長様のお話を聞きますと、行政が後押しをする事業であったとしても、はっきりとした先行きというか、そういった透明性がしっかりと示されなければ、事業に参加できないよね、という声をいただいております。いよいよ5年前に始めますというときに、誰もやってもらえる事業者がないという状況になってしまいますと、元も子もないなどということも考えておりますので、一刻も早く方向性を沿線自治体の皆様の御協力を得ながら、見出して行って、事業者も行政もみんなで次の一步を踏み出せるような前向きな方向性というものを早急に示していきたいと考えているところでございます。

一点質問なんですけども、譲渡資産から除外して価格の見直しをして、額が下がったという説明があったんですけども、譲渡しないということ的前提として価格が下がったのか、それとも、評価自体がそのようになって譲渡はするんですけども、売却の値段として除外されているだけなのか、疑問に思ったんですけども、どうなんでしょうか。例えば、価格がゼロになりましたけども、何も使えないようなものをそのまま譲渡してもらったとしても、壊すのにお金かかるし、いざ壊すとなればそれに付随していろんなものをいじらなければならないとなると、結果としてゼロではないですよという話になりかねないと思うんですよ。数字を見直したときに、どのようなものとして捉えていたのか教えていただければと思います。

【北海道並行在来線担当課長】

JRからの譲渡資産の考え方ですが、基本的にはJR北海道から実際に鉄道運行に必要なとする施設一式を、第三セクターに譲るという内容で、全体でいくらかということで数字をもらっております。その中で、第三セクター鉄道を運行するとした場合、実際に必要となる施設、ここで言いますと、旅客に必要なものにつきましては、事務局にて整理しまして、JR北海道と協議をして除くと。その施設につきましては、価格があるかないかという考えではなくて、その施設が必要か必要でないかという考えの元で除外をするとしております。ですから、今後、協議を進めていく中で、五稜郭駅の周辺や函館駅の周辺などいろいろと施設はあるのですが、これが第三セクター鉄道として必要であるというふうな判断が協議の中でされた場合については、引き続き議題に載せてやると。それ以外につきましては、除いて整理していきたいとJRとは協議をしております。

【森町長】

わかりました。必要か必要でないというところに価格が存在するかしらないかというだけの積み上げなんですね。実質的な負担がどうなるかはひとまずはまだやっていないということですね。

わかりました。ありがとうございます。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。町においても実証実験を含めて、いろいろと対策を打たれているということをお伺いしました。私どもの昨年度1年かけまして、全道のほとんどのバス事業者にヒアリングしてきました。非常に厳しい状況に置かれているというのは、十分わかっているつもりなんですけども、コロナの影響も長引いている中、我々も交通政策を打っていくんですけども、交通事業者さんなくしては、我々がいくら言っても交通政策は成り立たないと。事業者をどのように守るかという点も、今ご指摘いただいたとおり、非常に重要な点だと思っておりますので、当地域においては、函館バスさんも苦しい中で頑張っておられるというふうに聞いておりますので、是非、様々な交通モードをうまく利用できるように、知恵を絞っていきたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

【八雲町長】

先ほど9回と聞いて9回目なんだと、ただ、9回目にしてね、少し私達も理解できるような資料が出てきたのかなと思って安心をしているところです。ありがとうございます。

八雲町と長万部町は新幹線ができるということで、やはり駅ができることで観光というのは大事だろうというのは、私もアフターコロナの町の発展は観光なくしてはないと、特にこの八雲町は観光ゼロ地域という地域でありますので、やはり新幹線使いながら、函館から札幌に行く間に八雲に降りてもらおうかと、そういうのが大事だと思います。

その中で、先ほど函館市さん、北斗市さん、七飯町さんが言っている、新函館北斗からの（はこだて）ライナーというのは、これ大切なものだと思います。これ先ほど言ったとおり、札幌来たら、八雲に降りていきながら北斗市に寄り、観光者は函館を目指すだろうということもありますので、この辺は大事なものなんだろうと理解してきました。私1回も乗ったことがないので、そのうち行きたいなんて思いながら、先ほど聞かせていただきました。

もう一つは、今回出たものを見ると、第三セクターでやった時の初期投資と、バスに転換した時の初期投資では、単純に10倍ですよ。考えた時にね、私の考えだけど、これは第三セクターで、今の函館駅から長万部駅の全てを線路を使って鉄道でどんな風にやるのかと強く思っています。ところが、今出てきているバスに転換する時の初期投資の中に、結局先ほど森町の岡嶋町長から話があったとおり、我々は地域の公共交通を考えていかなければならない時に、今、初期投資、八雲町だけのことを考えると、もしバスにした時のバス停は今の状態なのかと。そうじゃないのではと。駅まで行かなくても、やはり全天候的な、屋根があって、冷暖房が付いて、トイレもあると。さらに我々は、八雲のまちであればある程度バス停を起点を作りながら、我々のデマンドや循環バスを通していくという考えでいうと、バスの初期投資は、今のバス停の状態の初期投資だとして考えたら、ちょっと実情と合わないようなことになっているのではと危惧しながら、思っていると。このバス停の考え方というのは、今の状態で何も投資していないということではよろしいですか。

【北海道並行在来線担当課長】

バス停の考え方なんですけど、これは今後、幹事会の方で引き続き、地域の皆さんの利用実態を確認しながら、どういったバス停が必要かということを検討していく予定をしております。現時点では現行の既存のバス停を中心とした考え方になっています。ただ、今回の見直しとしましては、どこをバス拠点とするかは決まっておりますが、バスロケーションシステムを導入して、ある程度はバスの運行状況がわかるものを、どこか起点をもって、置いていきたいということで、提案して試算というのを見込んでいます。

【八雲町長】

ありがとうございます。大体そういうの見込んでいるというのであれば、やはりこれから、今日ここまで出たら、今度八雲町としては、来年度くらいから、地域の方々と、これ新幹線開業すると第三セクターになるかどうかというのは決まっていることなので、説明していききたいというのはね、説明というかどうかなんだろうというのを資料にしながら、やっていきたいと思っているので、私の考え方でいくと、先ほど言ったとおり、函館駅から新函館北斗駅の路線と、新函館北斗駅から長万部駅の間というのは、ちょっと考え方を統一しないと、我々、新函館北斗駅から函館駅の議論に入っても、なかなか発言といっても難しい発言なので、分けて話し合いする場所ができるのか、それともそれは各町でやってくれというのであれば、各町でやるような話にもなるので、その辺のことはどうなのか。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。まさに長大な線区なので、地域特性それぞれ違うと思っておりますので、そこは北並在の中でも、非常に何キロも長い長大路線も4つのエリアに分けて、色々議論させていただいた経緯もありますので、その地域特性に合った形のテーマを設けて、幹事会などを活用させていただきながら、議論していききたいと思います。

それから、バスのご指摘は非常に重要な点もあって、やはり長大であるが故に、どこを起点にするか、どこに機能を集約していくかというのがありますし、それから住民の皆様とのキャッチボールというのは、必ずここに入ってきます。それで私日高線の担当をして、残念ながら廃線になったんですけれども、その時に最初、我々役人が考えるルートがあまりにも70点くらいだねと、で、皆さんがよくなったねというのに2年くらいかかったんですね。ですから、私、そのキャッチボールの中で、普段から見直しながら、バス路線を見直していくことは、まずもって重要であると思いますので、できるだけ、キャッチボールできるような素材を早く事務方の方にお示しして、少し議論のたたき台となるようなものが早くお示しできるようにしたいと思います。

それから重要なのは、バス事業者さんのご意向も当然あると思いますので、バス事業者さんとも今後しっかり議論していけるような関係を作っていきたいと思います。

【八雲町長】

今の話で、そしたら函館駅から新函館北斗駅までの間の考え方と、新函館北斗駅から長万部駅までの考え方と、幹事会の中でも、もう少し深く議論していくという解釈でよろしいですか。我々が特別やらなくても、それは大丈夫だよという理解でよろしいですか。

【北海道交通企画監（座長）】

幹事会をせっかく設けていただいているので、まずはそういう項目や話題に合わせて、幹事会でも、もう少ししっかりまとめていきますし、節目節目でブロック会議の方に報告した方が良いという事象があった場合については、当然ブロック会議の方で皆さんのご意見をお聞きした上で、取りまとめたいて考えております。

【八雲町長】

ありがとうございます。それともう一つは、次、長万部町さんも発言ありますけども、長万部町さんはもう小樽・長万部間を廃線してバス転換ということで、新聞報道等で出てますので、たぶん我々よりも、長万部が在来線を残してどうするかという問題は、駅周辺を整備とか、そんなものに我々も絡んでくるので、やはりなるべく早く方向性を決めていききたいと思っていますので、情報をどんどん出していただいて、我々にも判断する材料がほしいと思いますので、これから引き続きよろしく願いいたします。以上です。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。それでは、最後に長万部町さんの方から。

【長万部町長】

一番最後になったので、簡単にお話させていただくのですが、小樽・長万部間、山線の在来線協議に参加をさせていただきました。

函館・長万部間は、市町が少ないのですよね、山線よりかは。その点は、議論も相当、良い議論がなされるのだと思っておりますけども、先ほど仰っていた5年前倒しということになると、あと3年ですよね。案を決めるとすれば短い中で、長万部は、おかげさまで山線の協議の段階で町民説明会とかを2年間やってきた実績もございますので、今回出てきた収支予測調査の結果を踏まえて、また、関係町内会と町民の意見交換会というのを取り入れて、前倒しの時期に合わせて決定をして進めていきたいと思っております。

各町のお話もそれぞれ伺ったので、それを参考に意見交換会に移らせていただいで進めて行きたいと思っております。以上です。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございました。北（長万部・小樽間）の並行在来線も含めまして、よろしくお願ひしたいと思います。

一通りご意見をお伺いしましたけども、最後に何かございましたら伺いたいと思っております。

【函館市長】

1点ですが、八雲の岩村町長からお話がありましたバスの問題ですけども、一般的にバス転換という、松前線が廃止されて木古内と松前間が何も鉄道がなくなって、新幹線ももちろん走らない。あるいは江差線の木古内・江差間も完全に何もなくなったからバスを走らせると、先ほど交通企画監が仰っていた日高線もそうです。

この函館・長万部間というのは、函館と新函館北斗間はありませんけども、その先は、新幹線が走る訳ですね。そうすると、いわゆるバス転換というのとは、ちょっと違った視点で、そのバスというのは、各々、八雲とか、長万部の新駅との間がバスになるのか、あるいは、今までどおり函館から、ずっと、例えば八雲に行くバスなのか、長万部に行くバスなのか、そういうのは検討していかなければと思う。

単純に鉄道も新幹線も走っていないところの転換とはちょっと違うかなという、そこら辺の乗客の調査をやっていないと、良いものは出てこないと思っておりますので、すぐには結論が出ないと思っております。

だから通勤・通学の人、例えば長万部から函館にくるとなったら、たぶん新幹線を使って、新函館北斗まで来て、（はこだて）ライナーでくることになるので、ずっとバスでくるというのは無いかなと、森町とか鹿部の場合には、そうはならないと思うけど、といういろんな事を想定しないとならないなという気はします。

【北海道交通企画監（座長）】

一緒に知恵を出していただきながら進めていければと思っております。

長大線区でありますので、様々なお考えがあると思っております。また、高速道路も延びると思っておりますので、この高速ネットワークもどう活用するかというのも重要な視点でございます。通学とか通院が広域化する中で、一刻も早く行きたいときはもちろん新幹線、多少時間があるときにはバスでと、いろいろな通学のパターン、仕方も変化していく可能性がありますので、丁寧に対応してまいりたいと思っておりますので、首長さんに余り細かい話はちょっと難しいかもしれませんが、ただ調査だけはしっかりして、調査をしっかりして幹事会の方に報告させていただき中で、また、フィードバックいただく形で議論を深めてまいりたいと思っております。しっかり丁寧にやりますので。

【鹿部町長】

森町さんや八雲町さんからも話がありましたが、早くに方向性を決めたほうがいいのではないかと考えております。ロードマップも2025年ではなくてももう少し早くして、町民への説明もありますから、町民説明の前段階の決定をいついつまでにやるとか、そういったものをきっちりお尻を決めて議論したほうが進むのかなと思ったので、そういうものがあればお願いしたいですし、なければロードマップを作るべきかなと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

バスの走らせ方、高速体系、新幹線、それぞれ課題がありますが、先延ばしにする気は全くありません。スピード感を持ってやろうと考えています。ただ、住民の皆様へ情報提供できる状況をいかに早く作るかが我々事務局として汗をかかなければいけない部分ですので、役場の皆様のお力もお借りして、実態としてどうなのかというところを早くバスの考え方などにも反映できるようにスピード感を持って対応してまいりたいと思います。

【北斗市長】

新函館北斗駅の使命、役割について先ほどお話ししました。実は、新幹線を利用される方、特に本州から新函館北斗駅で降りられる新幹線利用客のほとんどが行先は函館です。ですから、新幹線を降りると大変多くのお客様が（はこだて）ライナーを利用して函館に向かうということがございます。コロナ禍として見れば、昨年よりは増えたと言いながらもまだまだ6割程度なんですけど、それでも私も札幌へ行くのにJRを利用するものですから、新幹線が来る時間と同じ時間帯に（はこだて）ライナーは運行されているので、かなりの人たちが（はこだて）ライナーを使っているのを見ると、残していかなければいけないだろうと。ただ先ほど申し上げましたように、単年度収支を見ると、ものすごい大きな金額がかかっています。道南いさりび鉄道は運行距離が倍以上であり、単年度収支で見れば、函館・新函館北斗間では倍以上の金額がかかってくる。我々はこの状況を、議会や市民に説明しなければいけない責任があります。確かに使っている車両が違う、道南いさりび鉄道はディーゼルなんですけども、それと電車との違いがあるかもしれないですけども、ここはあまりにも大きな金額の乖離がございますので、そういったものをまずお示しただけなければ、我々は議会や市民に対して説明はできない。

それから、新函館北斗・長万部間のバスに関しては先ほど工藤市長が言ったように、新幹線が利用できる区間もありますので、そういったものを考慮しながら考えていただければ大変ありがたいと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。（はこだて）ライナーの重要性とともに経費の問題もあります。我々の手で将来に向けた需要をどう取り込んでいくかという部分も課題としてあります。函館という巨大観光地、あるいは巨大観光圏として、皆さんお集まりだと思っておりますので、しっかりと精査して、我々としても皆さんにお示しできるデータを一刻も早くお示ししていくことが、我々事務局に課せられた使命だと思っておりますので、住民説明も含めて、議会説明も含めて、皆さんが納得していただけるような検討を進めていくことが、今後の責任ある進め方になるのかと思いますので、誠意をもってやりますので、よろしくお祈りしたいと思います。

時間になってまいりましたが、最後に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（意見なし）

ありがとうございます。

本当に本日はお忙しい中、長時間ご出席いただきましてありがとうございます。

今後の地域交通の確保を検討していく上での必要な収支予測の見直し等について、今日報告させていただきましたが、(はこだて)ライナーもバスも含めまして、本日協議会の意見を様々いただきました。

この後以降、ブロック会議も節目節目でやりますけども、幹事会を精力的に開催させていただきたいと思っております。

できるだけ早期に、皆様にそういった考え方を踏まえた方向性について、できる限り早くスピード感を持ってやっていきますので、引き続き、ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

以上